

『先生』

関口洋平

〈登場人物〉

アキ・・・俳優（制作もちょっとやる）

ミカ・・・俳優（新人）

田中・・・演出家（劇作もちょっとやる）

リク・・・劇作家（俳優もちょっとやる）

開演前。リクが客席に座っている。田中から、何やら説明を受けていて、それをにこやかに聞いている。開演中、リクは笑うべきではないようなところで大袈裟に3回ほど笑えるという。

開演。喫茶店。アキとミカが席についている。田中が机の横に立っている。

田中　ご注文は以上で？

ミカ　いいの？

アキ　あもう、もう全然。

ミカ　そう？　いいよおほら、トッピング？とか？

アキ　いやいやそんな……

ミカ　あ、じゃあ、以上で。

田中、頷いて去る。

アキ　すみません、ありがとうございます。

ミカ　え？　ああ、全然出すよこれくらい、てか呼んだのこっちだし。

アキ　（周りを見て）　いやでもこんな素敵な、ねえ。

ミカ　いいところでしょ。よく来るんだあ。

アキ　さすがだ……

ミカ　（笑って）　いやいやそんな。

アキ　（笑って）　で、お話というのは。

ミカ　あ、これ。

アキ、ミカにスマホを見せる。

ミカ どう？
アキ ……え、素敵な方だと思います。
ミカ でしょ？（ニヤニヤ）
アキ え！え？この人？
ミカ そう。
アキ えー、こんな人がマチアプやってんだあ……
ミカ ちよっとお。
アキ あすみません。
ミカ いやまあいいんだけどねえ。（ニヤニヤ）
アキ めっちゃお似合いだと思いますホント。
ミカ ありがとう。

間。アキ、スマホをじっくり眺める。

アキ ……いやでも、一瞬、竹内涼真かと思いました。
ミカ あ、竹内涼真だよ。
アキ え竹内涼真？
ミカ うん、竹内涼真。
アキ あ、ええー？……え、その、竹内涼真と？
ミカ うん、付き合ってる。
アキ （笑い混じりに）……いやいやいや、
ミカ （真剣に）でね、リヨウマってさ、
アキ ちょ、ちよっと待って、
ミカ 何？
アキ まだ先には進めない。
ミカ なんで？
アキ いやだって、嘘すぎるから。
ミカ ホントだよ。
アキ 竹内涼真がTinderやってるわけないでしょ。
ミカ 実際マツチしてんだから。
アキ いやそれはなんか絶対、
ミカ あじゃあ、分かった。
アキ え？
ミカ 嘘でもいい。
アキ は？
ミカ 嘘、可能。

アキ えあの、
ミカ 嘘の持ち込み可。
アキ 嘘の持ち込みって何？
ミカ まとにかく、嘘だってことにしよ。
アキ え嘘なの？
ミカ 一旦ね。
アキ 嘘には一旦とかない。
ミカ 嘘だとして、こっからが大切だから。
アキ 嘘の先に大切なモノなんか生まれやしない。
ミカ (無視して) リヨウマってさ、カッコよくない？
アキ ……はあ？
ミカ 一旦答えて。カッコいいよね？
アキ ……まあ、それは。
ミカ ふう…… (元気に) よしっ！
アキ なにが？
ミカ じゃ、行きますね。
アキ どこに？
ミカ (過剰にハッキリと) 竹内涼真って、なんでこんなに、カッコいいと思いますか？
アキ (目をギュッとつぶって) なになになになに……
ミカ (スマホを差し出し) これ、よく見て。
アキ いやあのお、
ミカ (過剰にハッキリと) そう！お肌が、とっても綺麗だから、カッコいいんです！
アキ ええ？
ミカ (過剰にハッキリと) あなたも、こんなお肌、目指したいですよね？
アキ あ、ああ、ああ……

ミカ、カバンから商品を取り出す。

ミカ (棒読み) えー、そんなあなたにオススメ、こちらの、ウルトラモイストスキンパ
ック、その名も、ツタンカーメン。~
アキ いやいやいや……
ミカ (棒読み) これ一枚で、朝から晩まで、頭からつま先まで、ゆりかごから墓場まで、
うるおいつづけて困っちゃう。~
アキ 無理あるって……
ミカ (棒読み) 今お買い求めいただければ、なんと脅威の99・9パーOFF、8枚セ
ットで39800円でのご提供。~

アキ 元いくらよそれ。

ミカ (強気に) てかあのごめん！これあれなの、買ったら儲かるやつなの、だからあの、売って買うのよ。あ違うわ、まず買って、そんで売る、つまりね、お前が、おまえー違うわ、あだから、お前がお店になんの。すごくない？

アキ なんて？

ミカ (焦らせるように) ぜひ今、今だけ、今だけよ今、ナウ、今買わなきゃ今今今あ、

(林修で) いつ買うの？今でしょ。

アキ (手を叩いて) はい、ストップ。

ミカ (切り替えて) はい。

間。

ミカ ……どうでしょうか、先生？

アキ あゼロ点ですよ。

ミカ え！

アキ ゼロ点です、普通に。

ミカ (過剰に不満げに) えー……

アキ 「えー」じゃないよ。あの、あなたはね、詐欺というものを、舐めています。

ミカ いやそんな、

アキ こんなんで騙される人間はね、もう人間ではない。

ミカ え、AI ってことですか？

アキ ああもう違う違う違う、全部違う……

ミカ (過剰に悲しそうに) 全部違うんだあ……もうダメなんだ……

アキ (ちょっと同情して) ……あーいや、ま、導入はよかったよ正直。彼氏の話、っていう切り出し方。

ミカ おお。

アキ 相手もさ、油断するしね。

ミカ あざますっ。(ニコニコ)

アキ でもホントにそこだけ、そこだけね。ほかは全部ダメ。

ミカ (過剰に不満げに) えー。

アキ その「えー」やめなさい。

ミカ あすいません。

アキ、ため息。少しの間。

アキ ……やっぱもう、実戦しかないか。

ミカ え？

アキ ずっと模擬でやっててもさ、緊張感なくなってきたやうでしょ？マルチって結局、実際やってみないと分かんない部分もあるしさあ。
ミカ はあ。

アキ、田中が注文した商品を持ってくるのを見て。

アキ あじゃあ、ちよいどいいや。

ミカ え？

田中 お待たせしました。

アキ (店員を指し) この店員さんに勧めてみてよ、商品は？

田中 どうかされました？

ミカ あいやその、

アキ (立ち上がって) すいませんこの子、なんか店員さんに話、あるらしくて。
ミカ え！？

田中 話？

アキ (わざとらしく) あなんか急に電話かかってきたあ。

ミカ いやいやいやいや、

アキ ごめんなさいちよつと、聞いてあげてもらえますう？話。

田中 はあ。

ミカ いや、えちよつと待って、

アキ 「見てる」からね。

ミカ は？

アキ 「見てる」から。

ミカ いやあの、

アキ (大きめに) じゃ！

アキ、風のように店を去る。残されるミカと田中。少しの間。

田中 えつと……なんででしょうか？

ミカ あいえ、その……うーん、

田中 お話があるんですよね？

ミカ いやお話というか、えつとお……

少しの間。

田中 （やや嬉しそうに）……えまさか、告白ですか？
ミカ あ全然違います全く。

田中 （残念そうに）あそうですかあ。

ミカ あいやその……え……どこから……あ、だからその、彼氏が、
田中 （遮って）え告白ですか？

ミカ あだから違います。

田中 あそうですかあ。

少しの間。ミカ、軽く頭を抱える。

ミカ （抱えた頭を持ち上げて）……あのごめんなさいやっぱなんでも、ヒョウッ！

ミカ、一点を見つめている。ミカの視線の先には、アキがいる。アキは窓の外からこちらをガン見している。

ミカ ホントに見てる……

田中 ……なんでも表？

ミカ （アキを見つつ）え？

田中 なんでも表、って言いましたよね。

ミカ （アキを見つつ）あ、いやあ……

田中 なんでも書いてある表……聖書のことですか？

ミカ （店員に向かって）あ聖書は表じゃないと思いますけど。（すぐにアキを見る）

田中 （ミカの視線に気づいて）あの、向こうに何か？

ミカ （視線を外して）あいえ！なんでも

田中 はあ。でも……

ミカ あのだ！

田中 あはい。

ミカ ん……やるしかないのかなあ……

田中 あの、何を？

ミカ ……これ、見てもらえますか？

ミカ、スマホを店員に見せる。

田中 これは……竹内涼真？

ミカ あはい。

田中 竹内涼真が何か？

ミカ え、つとお……カツ、コいい、と、思いませんか？

田中 あはい、とても。

ミカ おお。

田中 いいですよねえ竹内涼真。

ミカ あ、じゃあ！あのお……

田中 はい。

ミカ ……なんで、竹内涼真って、こんなにカツコいいと思います？

田中 （周知の事実のように）肌が綺麗だからですよ？

ミカ えそう！そうなんです実は！

田中 前から思ってたんです、どうやったらあんな綺麗な肌になるんだろうなって。

ミカ えー、え、あのそれがですね、（商品を手に持ち）実は、竹内涼真ってこのパック

を使ってる。

田中 えそうなんですかあ！へえこれを……きつとすごい効果なんでしょうね。

ミカ あはい、あの、一枚で、一日中効果あるう、みたいな……

田中 そんなに！でもじゃあお高いんだろうなあ……

ミカ あそうですね……それはちよつと……

田中 ですよねえきつと12万とかりますよねえ？

ミカ ……あえつと、自分から買ってもらえると39800円で、

田中 ちよつとちよつと！それ安すぎませんか！

ミカ え仕込み？

田中 え？

ミカ （一瞬アキを見て）あの、サクラじゃないですよ？

田中 桜、ですか？（自分の体をじっくり見て）え、自分……人間に、見えませんか？

ミカ あもういいです、なんでもないです。

田中 はあ。

ミカ それであの、もしよかったらこれ、買ってもらえたりしないかなあとか思ってた。

田中 え全然買いますよお。

ミカ ホントですか！？

田中 までもそつと39800円か……あの、もう一声、安くなったりは、流石に難しい

ですよねえ？

ミカ えー……あ、それなんですけど、これ、別の人に売ることができて、

田中 え？これ転売してもいいってことですか？

ミカ ん？まあ……まあそうですね、そんな感じ。

田中 うわ自分前から転売興味あったんですよ、ラッキー。（小躍りする）

ミカ （小躍りを見て）なぜだろう、人を騙しているというのに、全く心が痛まない。

田中 (小躍りをやめて) えこれ今買えるんですか？
ミカ あもちろんです！

田中、札束をポケットから出して数え始める。

ミカ うわすごい額の現金を生でポケットに……変な人……
田中 (札束をそのまま渡して) あこれお釣り大丈夫なんで。
ミカ え！？やっぱいい人かも……
田中 あとすいませんこれご注文の。

田中、料理を机に置く。

ミカ あどうも。じゃあ、あの、こちらを……

ミカ、商品を田中に渡す。

田中 えーなんかすみません自分だけこんないものいただいちゃって。
ミカ あいえそんな……

田中 (料理を指して) あでもこれもかなり美味しいんで、トントンってことで。(笑う)
ミカ ああ…(愛想笑いをしてから、首をかしげる)
田中 じゃあ、ごゆっくり。(厨房へ)
ミカ ……え、あのお。

田中 (足を止めて) はい？

ミカ あの、あのすつごく失礼なこと聞くんですけど。
田中 为什么呢？

ミカ あの、あなたはあ……人間……人間、ですよ？

田中 (平然と) あ違いますよお。
ミカ ええ……

田中去る。ミカ、去った方を見つめる。少しの間。
アキ、店内に戻ってくる。

アキ えなんか……見てただけだよ。
ミカ あ、(こちらからも) 見えてました。
アキ いや、成功してなかった？
ミカ あはい。

アキ えウソ!? スゴ!! なんて言ったの!?

ミカ さっきと全く同じ内容を……

アキ あれで!?

ミカ はい。

アキ 嘘だ。

ミカ 嘘かと思いました。

アキ いやだってもうそれは、人間じゃないじゃん……

ミカ あなんかホントに人間じゃないみたいなこと言ってる……

アキ ええ……じゃ、AI ってこと?

ミカ いやあ……

二人、厨房を見つめる。間。

アキ (一気に) までもじゃあなんにせよとにかく上手くいったってことだ。

ミカ え? ああまあ、それは。

アキ ふう…… (元気に) よしっ!

ミカ え?

アキ (過剰にハッキリと) すばらしい! おめでとう! 才能アリ! 天才だ!

ミカ は?

アキ (過剰にハッキリと) マルチの道は、険しいけれども、これからどんどん、極めよう!

ミカ えなに?

アキ (棒読み) えー、それではこれから、次のステップについてご説明いたします。

ミカ おい。

アキ (強気に) てか言うこと聞いてくれたら絶対儲かるからさ、儲かりすぎて困る、いやいっそ困らない、てか困らなすぎて困る、そんなあなたを困らせたい。は?

アキ (焦らせるように) よし! やろうマルチ! マルチやろう! やろうマルチ! マロウやるち! やまろウルチ! ヤマタノオロチ! ん?

ミカ (手を叩いて) はい、ストップ。

アキ (切り替えて) はい。

間。

アキ ……どうでしょうか、先生?

ミカ ゼロ点です。

アキ え！

ミカ あの、あなたはね、詐欺の先生、というものを、舐めています。

アキ いやそんな、

ミカ (遮って) たしかに！詐欺のプレイヤーとしての能力は、多少お持ちなのかもしれません。ただ、詐欺のやり方を人に教えるというのはつまり、一犯罪者から、犯罪グループのリーダーになるといことなんですよ？

アキ (神妙に) ……はい。

ミカ それはつまり、社員から、社長になるということです。

アキ はい。

ミカ つまりですね、川から、海になるということです。

アキ え？

ミカ つまり！野菜から、農家になるということです。

アキ あすいませんちよつと意味が、

ミカ とにかく！不合格ですね。

アキ えー！

ミカ お疲れ様でした。

アキ え、いやちよつとあの、すいません受け直したいです。

ミカ 次回の試験は半年後になります。

アキ え半年！？

ミカ 当たり前でしょう、詐欺は一日にしてならず。明日再試験したって落ちるに決まっています。

アキ それはあ！……そうかもですけどお……

ミカ 受験料だって決して安くはありませんよね？人から巻き上げたお金なんですから、無駄にしちゃいけませんよ！

アキ それもお！……そうかもですけどお……

ミカ もう一度、一からやり直すつもりで、人を騙してきてください。私たちは、あなたの敵ではない、むしろ味方なんです。いつまでも、あなたを待っていますからね。なんかすごい親身になってくれる……思いっきり犯罪者なのに……

アキ あなたが偉大な詐欺グループのリーダーになれるよう、心から祈っています。では、また半年後。

アキ ……あのお、

ミカ はい。

アキ でもその流石に、半年っていうのは……

ミカ (魚が餌に食いついた時の嬉しさで) ですよねえー！

アキ ……ええー？

ミカ そ、こ、で！

アキ 嘘でしょ。

ミカ (書類を取り出し) 今回ご紹介したいのが、この詐欺教員試験特別再受験証、別名、ファストパス。

アキ うわあ……

ミカ こちら、だいたい受験料の倍額、つまりおよそ240万円ですね、お支払いいただければなんと！再受験までの期間が、半分の、3ヶ月に。いかがいたしますか？

アキ いやいやいやいや……そんな……買います。
ミカ 毎度ありい。

田中、手を叩く。喫茶店は劇場になる。

田中 (手を叩くと同時に) はい！ということ……

田中、言いながら舞台上に出てくる。アキとミカ、立ち上がりお辞儀。

田中 以上を持ちまして、本公演は終演となります。ご来場、誠にありがとうございました。また、本日の終演後ですね、アフタートークのほう予定しておりますので、お時間あります方は、ぜひそのままお席にてお待ちください。ではただいまより、アフタートークの準備の方に、

リク (突然立ち上がり、興奮した様子で) いや素晴らしかったですう、
田中 あちよつと先生、

リク (領きながら) うん、私、見事に騙されてしまいました。

アキ いや先生先生、

リク これはぜんぶ田中くんが、

ミカ あの！

リク ん？

ミカ まだだと思えます、あの……

リク まだ？

アキ (田中に) え説明してないわけ？

田中 いやしたよお、(先生に) あの先生、すみません。

リク うん？

田中 先ほどですね、こちらからお声がけしますので、えっとお、それまでお座りいただいて、というお話をさせていただいたかなと、

リク あ、そうかそうか、あそうだった。

田中 あそうなんです、すみません、

リク いやあこれは失敬。

田中 いえいえ、
 リク あまりに素晴らしかったもんでね、ちょっと興奮してしまいました。
 田中 あそれは、本当にありがとうございます。
 リク これはぜんぶ、田中くんが考えたんですか？
 田中 あ一応、はい、
 リク すばらしいねえ！
 田中 あ、ありがとうございますその、
 リク 最初はねえ、ごめんね、なにがなんだかちよつと分からなくて、
 田中 ああ、（すみません）
 リク でもそれからあのお、なんだっけ、ええと……（考える）
 アキ （小さく、田中に）ねえ、
 田中 ん？
 アキ このまま始めんの？
 田中 ああいやいや、（先生に）あの先生、
 リク あそうだ、竹内涼真ね！竹内涼真からの展開がねえ、よかったんだよな…
 田中 ああ、ありがとうございます……
 リク ねえ、確かに、肌が綺麗だよねえ！
 田中 ああ、はい。
 リク あ！あとはほら、あのお……（考える）
 アキ ねえ。
 田中 あそうか、（先生に）あの先生、
 リク あそうそう、A Iとかもねえ、よかったねえ、今風で！
 田中 あ、（ありがとうございます）
 リク というか、田中くんは、人間じゃなかったんだよねえ？
 田中 あまあはい、一応。
 リク じゃあ結局、何者だったんですか？
 田中 あそれは、
 アキ あの先生、準備があるんで。
 リク あそうか、そうだよね、
 田中 すみません、
 リク でも最後に一つだけ聞きたいんだけどね、この終わり方っていうのはさ、
 アキ 先生！
 リク おお。
 アキ いい加減にしてくださいよ、
 田中 いやアキちよつと、
 アキ アンタがいつまで経っても止めないからでしょ！

リク おお、おお、

田中 いやお客さんの前だしさ、

アキ 何がお客さんだよ！

ミカ え？

田中 おいそれ。

アキ ……あ。

田中 （リクに）どうする？

リク、手を叩く。

リク はい、ストップ。

ミカと田中、ため息。

アキ （リクを指し）いやだって、ふざけてるじゃんもう。

リク え僕ですか？

アキ 先生そんなヤバ人間じゃないよ。

リク いやいやこんな感じでしょ？（田中に）ねえ？

言われた田中、なんとなくミカを見る。

ミカ （目が合って）いや私知らないんですって！

田中 あそうかあ。

ミカ え田中さんが呼んだんですね？

田中 うーん、まあ。

ミカ まあ？

田中 いやここ3人で話して決めたことだから。（アキとリクを示す）

アキ いやアンタがどうしても呼びたいって言って聞かなかったんですよ。

リク はい。

田中 ええ？

リク 僕反対しましたし。

田中 いや、

アキ え待って、だからメチャクチャしたってこと？

リク 何がですか？

アキ いやさっきの先生。

リク えだから、あんな感じでしょ先生、普段から。

アキ 違うよ！

リク 話したいこと話し切るまで決してブレーキを掛けない暴走老人でしょ。

田中 おおいちよつとそういう言い方はさあ、

リク 事実じゃないですか。

アキ いや授業、そんな感じじゃないじゃん。

リク えまさかアキさん、先生と授業外で話したことないんですか？

アキ 大学の先生と何を話すことがあんのよ。

リク うわ。大学に来る意味のない人種だ。

アキ (詰め寄り) オマエはさあ！

田中 (間に入り) まあまあまあ。

アキ コイツは生きる意味のない人種だ！

田中 言い過ぎ言い過ぎ。

ミカ てか結局、どうするんですか？

アキ ああ？

ミカ ちよつと、こつちまで喧嘩腰やめてください。

アキ (怒りながら) ごめんね！

田中 何をどうするって？

ミカ いやこの、アフタートークの、リハ？でしたっけ？

田中 ああ。

ミカ 時間ないですけど、もっかいやっときます？

田中 そうねえ。

アキ (リクを指し) いやちゃんと先生やんないんじゃない意味ないでしょ。

リク だからあ、

田中 あゝ分かった分かった。

アキ 何が分かったの！？

田中 いやまあ、うん。揉めてる、ってことが分かった。

アキ それ何も分かってないのと一緒だから！

リク (バカにして笑って) この会話の意味って……

アキ 意味意味意味意味！この、意味星人が！

リク なんですかそれ。

アキ 語尾にイミを付けて喋る意識高い系の宇宙人だよ！(声を変えて、バカにするように)

リク えなんか楽しそうですねえ。

アキ 楽しいわけねえだろこの、バカが！(リク、笑っている)

田中 (注意する) 口悪いよお。

アキ てか田中、アンタもおかしいからね。

田中 うわ。
 アキ 何がうわだよ。
 田中 いや急にこっち来たから。
 アキ アンタが！先生来た時の対応、ちゃんと練習しときたいって言ったんだよね？
 田中 いや、そうね。
 アキ 対応、しましたか？！
 田中 まあだから、もっかいやろうかなって。
 アキ もっかいってさあ……ねえ、ちゃんと考えてる？
 田中 え考えてるよ、一番考えてるし、だからもっかいやろうって、
 アキ (遮って) いやだからあ、
 リク (遮って、さりと) 何が問題だったか詰めないまま繰り返しても、意味がないんじゃないですか？
 田中 ああ。
 アキ ……まあ、そういうこと。
 リク あ、(声を変えて) 意味がないと思うイミ。
 アキ はい、今から劇場での暴力を解禁しましす。(殴りかかる)
 田中 (止めて) しないしない、禁止禁止。
 ミカ (声で止める) でも！
 アキ (怒りながら) なに！
 ミカ 問題って言っても、田中さんが、先生の話をちゃんと切ればいいってだけじゃないですか？
 田中 ああうんまあそうね。
 ミカ さつき、なんで出来なかったんですか？
 田中 あゝいやなんかうゝん、わざわざ来てもらってるのにちよつと、強く言うのは申し訳ないなゝと思っちゃって、あと緊張もしちゃって。
 アキ 田中さあ、そういう態度の方が、余計失礼ってこともあるよ？
 田中 え？
 ミカ というか、申し訳なく思わなきゃいけないような人なんですか？その先生って。
 田中 ええゝ？
 リク あゝ。
 アキ おお。
 ミカ なんですか。
 アキ 言うねえ、ミカ。
 ミカ だって知りませんし。有名な人なんですたっけ？
 田中 いやそりゃあまあ、ねえ？
 アキ なんだっけ？演劇やってたんだっけ？

リク いや、単に観劇が趣味のおじいさんですよ。

ミカ え？普通のおじいさんにアフタートーク出てもらうってことですか？

田中 いやいやいや、だって教授よ？

リク 法学のね。

ミカ え……

田中 すごい人じゃん！法律の、教授だよ！？すごい人呼んで、アフタートークとかやっちゃったらさ、なんかこう、プロっぽいじゃん！あほら、（アキを見て）集客的にもね？

アキ 別にアフタートークの回、伸びてないけど。

田中 そうなんだよなあ、それが想定外。

リク 想定なんか何もしてなかったでしょ。

田中 いやまあ、まあそうね。その意見も一理ある。でもさ、

ミカ （遮って）あの。

田中 うん？

ミカ 先生って、乗り気だったんですか？このアフタートーク。

田中 ああそれは、うん。授業終わりに声かけたら、めっちゃくちゃ喜んでた。

リク 喋りたがりなんですすよ。

アキ 見えないけどなあ。

田中 （アキに）までもごめん、正直授業外の先生って、リクがやってた感じが近いかも。

リク ほらね？

アキ ……あっそ。まあいいわ。

田中 ごめんごめん。

リク （煽るように）よっしゃあゝ。

アキ オマエはずっと一言余計だからな？

リク まあまあ、時間ないんですから。

アキ そういう一言が貴重な時間を、

ミカ リクさん。

リク ごめんごめん、

アキ ん？

ミカ え？

アキ ミカ、リクのこと、下の名前で呼んでたっけ？

ミカ ああ、それは……まあ。

アキ ……ええ？

リク いや別に呼んでましたよ。

アキ でも前さあ、（なんて呼んでいいかわからないみたいなこと相談してきたじゃん）
リク てかその話どう考えても、（ハッキリと）今じゃないでしょ。

アキ　はあ？
田中　おお。
アキ　（田中に）なに。
田中　え？
アキ　おお、つて。
田中　ああ！いや今の、逆、林修だなんて。
アキ　あ？
田中　（ちょっと林修を意識して）「今じゃないでしょ。」（一人で笑う）
アキ　田中、
田中　ん？
アキ　あんたが一番時間の無駄だわ。
田中　（本当に分からず）えなんで？
アキ　だからあ！
ミカ　（声で止める）みなさん！
アキ　（怒りながら）なに！？
ミカ　一回整理しましょう！
アキ　だからなにを！？
ミカ　喧嘩腰やめてください！！
アキ　ごめんね！！！

少しの間。アキとミカ、一呼吸。

ミカ　（リクを指差し）つまり。リクさんは、ちゃんと先生を演じてて、ふざけてたわけではない。
リク　うん。
ミカ　（アキを指差し）だから、アキさんも怒る必要はない、ですよ？
アキ　……まあ。
ミカ　（田中を指差し）で、先生はアフタートークに乗り気なんだから、田中さんは、申し訳なくする必要も、緊張する必要もない。
田中　えー、まあ、そうなんだけど……
ミカ　なんですか？
田中　いやだって、来てもらってはいるわけで……
ミカ　別にアレですよ、無礼に振る舞ってことじゃなくて、むしろ礼儀をもってきちんとやりましょうって話ですからね。
田中　んー？……まあ、まあそうか。
ミカ　人間同士なんですから、落ち着いて、きちんと、対話することが大事ですよ。

田中 まあそうだな、そう……

ミカ よし。じゃ、もっかいやってみましょう。

田中 うん、よし、やろう。

アキ 分かった。

リク はい。

ミカ じゃ、終演後からでいいですかね？

田中 あ、でもごめんしたら最初から、

アキ ええ！？

田中 え、ダメか？

アキ 通し稽古の部分って、やる必要ある？いやてか、さっきやった分のフィードバックも貰ってないし。

田中 あゝ、まあ、特に直さなきゃいけないところはなかったから。

アキ え、じゃあやんなくてもよくない？もうホントに時間ないしアフタートークのとこだけやろうよ。

田中 いやそれだとちよつと……

アキ なに？

田中 あほら、先生が客席に來た時の感じとかもさ、練習しときたいかなあって。

アキ あそうだ！（リクを指し）コイツ、なんか変なところで笑ってて、マジ最悪だった！

あれなに？授業外だと、ああいうタイミングで笑うってこと？

リク いやあれは田中さんの指示ですよ。

アキ はあゝ？

田中 いやまあほら、変なところでウケるかもしれないし、その稽古も兼ねて。

アキ いやいや待って、（ハッキリと）アフタートークの稽古、だったよね？

田中 まあだから一緒にまとめてできたらいい感じかなゝって。でしょ？

少しの間。アキ、ため息。

アキ なんかその、曖昧な感じ？もう無理かも。

田中 え？

アキ いやマジで。優先順位ってあるでしょふう。今は、時間が、一番大切。そんなのみんな分かってんじゃない？えなんでそれが分かんない？

田中 いや俺は、

アキ もういい、ホントに話さないで。意味分かんないマジで……

リク アキさん、

アキ いやこれ以上なんか言われたら、田中のことホントに無理になっちゃうわ。ホントに無理になったら、本番も無理になるから、ホントに話さないでほしい。いやてか

ミカ 私いなくてもできるでしょアフタートークとか、だからもう、勝手にして……
アキ アキさん、あの、
ちよっと空気吸ってくる、開場までには戻るから。(去ろうとする)
田中 (アキの腕を掴み) いやアキ、
アキ 離してよ！

アキ、勢いよく田中の腕を振り払う。
田中、体勢が悪く、バランスを崩して転倒。すごい音。

田中 (同時に) いっ！
アキ (同時に) あっ……
リク (同時に) うわっ、
ミカ (同時に) ちよっ、

間。

アキ あ……ごめん、田中……
田中、動かない。

アキ え？……田中？
ミカ えあの、ちよっとすごい音、じゃなかったですか？
リク 田中さん。

リク、田中に近づき、揺さぶる。

リク (呼び続ける) 田中さん、田中さーん、田中さーーん、
アキ あ、え？
ミカ えあの、え？
アキ うそ。
ミカ いや、いやいやいや……

リク、しばらく「田中さん」と繰り返した後、そっと脈を取り、息を確認する。少しして、素早く立ち上がり、アキとミカを見る。怯えた顔。

リク ……きゅ、きゅ、きゅ、

ミカ え？
リク きゅ、救急車……

息を呑む音。少しの間。
田中、さっと起き上がり、手を叩く。劇場は教室になる。

田中 はい、ストップ。
アキ おお……

ミカ なるほど……

リク いやこれは難しいですねえ。

田中 でもみんな、演技上手かったねえ。

ミカ めっちゃ状況掴めました。

アキ いやでもあんなどこからやる必要あった？

リク 実際の現場検証とかも、全然関係ない時間から振り返ったりするらしいですよ。

アキ へえ。

リク まあこういう、演技力？が弁護士になるために必要かは、ちょっと分からないですけど。

アキ 言ってる。てかこの先生って人、マジで先生すぎない？

ミカ 思いました。

田中 いや、この事件例のシナリオって、書いたの先生なんだよ。

アキ えそうなの！？すごいじゃん。

田中 うん。だから、自分っぽい人も登場させたかったんでしょ。

アキ え、ちょっとかわいい。

ミカ えかわいいですか？

アキ いやなんかさあ、

リク まあまあまあまあ、皆さん、そろそろお勉強に戻りませんか。

三人 はい。

リク ではこれは一体、誰の責任とすべきなのか。まず、刑法199条によれば……

ミカ、手を叩く。教室はイミ星（いみせい）になる。

ミカ はい、ストップイミ。

リク え、全然意味分からないイミ……

田中 分からんイミねえ。

アキ え！？これで終わりイミ！？

ミカ あいや、終わりではないイミ。

アキ イミ？（え？）

ミカ この台本、地球からサルベージしてきたって話したイミ？

リク イミ。（うん）

ミカ ただ、サルベージ中にデータがケイオスホールを経由しちゃったらしくて、しかもそこで痙攣状態のK点に巻き込まれちゃったとかで、台本の途中までしか届かなかったんだイミ。

アキ 先生え……それじゃ意味ないイミい。

ミカ ごめんイミ。

リク 地球の物語文化について、やっと詳しく聞けると思ってたイミ。

ミカ だからごめんイミ。

アキ じゃあ結局この最後のところはこういう意味イミ？

田中 分かんイミねえ。

ミカ たぶんだけど、法律を勉強中の学生たちが、架空の事件を演じてみることで、法的な判断をくだす練習をしている、というシーンだと思うイミ。

アキ おお、なかなか意味のありそうなことをしてるイミ。

リク いやでも、そもそもこれは全部創作ってことイミ？創作の中で、創作について話をしているという創作を創作しているわけで……うん、全く意味が分かんイミ。

田中 分かんイミねえ。

ミカ まあでもつまり、このテキストからは、地球人は意味のないことが好き、という意味が読み取れるイミ。

リク イミイミイミ……（いやいやいや……）

アキ そんな意味じゃ意味ないイミ。

ミカ イミい？（なんて？）

リク ……前から思ってたんだけど、先生って意味あるイミ？

ミカ イミ！？（え！？）

リク 学生だけでは歯が立たないような意味を読み解く手助けをする、そのために先生は存在してるはずイミ。

ミカ そうイミ。

アキ じゃ先生は、なんの役にも立ってないイミ！

ミカ イミ！？（ええ！？）

リク だって先生、知識は浅いし、理解力は低いし、話してて参考になる瞬間がないイミ。正直なんのためにいるのか、意味が分かんイミ。

田中 分かんイミねえ。

ミカ イミい……（そんなぁ……）

リク 先生は、自分が先生をやってる意味とか、考えたことあるイミ？

アキ 言ってみるイミ。先生なら学生を納得させてみるイミ。

ミカ イミ……（意味……）

少しの間。

ミカ ……うん。確かに、先生自体には、意味はないかもしれないイミ。

アキ イミい。（うわあ）

リク おいおい、認めちゃったイミ。

ミカ （丁寧に言葉を紡いで）でも、たとえ私個人に意味はなくとも、あなたたちが何か

を成し遂げるときの糧になったのなら、それは意味のあることだと思いうイミ。つまり、あなたたちのこれからの人生が、私の意味を決める、ということイミ。

少しの間。

リク ……先生。

ミカ 分かってくれたイミ？

リク 他人に人生の意味を委ねるなんて、言ってて恥ずかしくないイミ？

アキ 意味分らないイミ！

田中 分らんイミねえ。

アキ 将来、先生にはなりたくないイミ。

リク 先生は先生でも、医師とか、それこそ弁護士とかの方が意味あるイミ。

アキ 教員は、意味がないイミ！

田中 分らんイミねえ。

アキ オマエは分かなすぎだイミ！

学生3人、声を合わせて「イミイミイミ」と笑う。

ミカ、にこやかに頷きながら、その様子を眺めている。

アキ なにニヤニヤしてるイミ？

ミカ いや、その批判的な姿勢。学生として、あるべき姿だと思うイミ。

リク （笑って）イミイミイミ、まあだ大人ぶってるイミ。

ミカ あ、ちなみに言い忘れてたんですが、このゼミは必修なので、単位を取らなければ

卒業はできません。卒業にも意味はない、ということであれば自由^に過^ごしてもらっても構いませんが、今日の発言に関しては全てこちらで記録しておりますので、そのつもりで。

間。

リック 先生って、最も意味のある素晴らしい職業イミ！

アキ 先生、サイコーイミ！

田中 全部分かったイミ！

ミカ 今更かわいこぶったって意味ないイミ。

三人 イミい……（そんなぁ……）

ミカ ただし！

三人 イミ！？（え！？）

ミカ （書類を取り出し）こちらの成績優秀者証明書をご購入いただいた方に限り、本日の記録を削除させていただくイミ。

三人 イミ！？（なんだって！？）

ミカ 定価125000イミルのところ、なんと、今すぐ私からご購入いただいた場合、特別価格39800イミルに割引いたしますイミ。

三人 買うイミ！

ミカ 毎度ありイミ。

アキ （手を叩いて）はい、ストップ。

ミカ （切り替えて）はい。

イミ星は喫茶店になる。間。

田中とリック、客席へ。アキとミカは最初の位置へ。

ミカ ……どうでしょうか、先生？

アキ あゼロ点ですよ。

ミカ え！

アキ というかあの……いい加減にしてください。意味が分かりません。詐欺を舐めてるとか、もはやそういう次元じゃないでしょ。

ミカ （過剰に不満げに）え……

アキ 「えー」じゃないよ。いやあの、今これ、何の試験でしたっけ？ちょっと一回言ってみてください。

ミカ あの、詐欺師の、

アキ （遮って）ですよ。そうですね？なのに最後なんか、謎の宇宙人たちによる謎の授業。えなんでもこうなった？

ミカ とりあえず買わせることが、一番大切になって。

アキ いや宇宙人引っ掛けても意味ないでしょ。

ミカ すみません……

アキ イミル巻き上げても意味ないでしょ！

ミカ おっしゃる通りです……
アキ えあの、ほんとにやる気ありますか？もしやる気ないんだったら、
ミカ (手を叩いて) はい、ストップ。
アキ (手を叩いて) はい、ストップ返しい。
ミカ え、え、え、え、
アキ なんですか。
ミカ えそれ、アリなんですか！？
アキ 当たり前でしょ。先生は、こっちですよ。
ミカ (過剰に不満げに) え……
アキ その「え」やめなさい。
ミカ あすみません。

間。

リク (手を叩いて) はい、ストップ。

田中とリク、出てくる。喫茶店は稽古場になる。

リク え、あの、どうでしたか？
アキ ん……
ミカ いや、私は好きですよ。ただその……
リク うん。
田中 分かりづらいよ、何がなんだか。
リク ああ……
アキ うん、そうねえ、もうちょっと整理した方がいいかも流石に。
リク ……なるほど。
ミカ でもあの、面白い掛け合いもありましたし、私は、はい。
リク あの、ありがとね……
ミカ いえあの、ほんとに。
リク ……そうかあ。ダメですよねえ……
田中 頼むよお、劇作家先生！（バシバシ背中を叩く）
リク うわちよつと、やめてくださいよお、

笑いながら、田中、去る。

アキ 期待、してるからね。

リク ……ありがとうございます。

微笑みながら、アキ、去る。稽古場は二人きりになる。

ミカ 私も、先生の新作楽しみにしてます！

リク いや、イジってるじゃん。

ミカ （笑って）すみません。

二人は笑い合う。リク、あくびをする。

ミカ 寝不足、ですか？

リク んー、これ書くのに徹夜しちゃったからさ。

ミカ あ……あの私、ホントに、

リク いや別に全然大丈夫、マジで。これも自分の大切な作品だし、なんていうか、意味ないわけじゃないと思うから。

ミカ、頷く。少しの間。

リク ……でも、ありがとね。

ミカ （微笑んで）……はい。

リク、目元を抑える。

ミカ え！？

リク あ違う違う、涙じゃなくてあのー……一晩中液晶見てたからさ、目、痛くて。

ミカ ああ、じゃあ私、いいの持ってますよ。

リク え？

ミカ、目薬を取り出す。

ミカ これ、めっちゃ効くんです。試してみてください。

リク いいの？

ミカ ぜひ。

リク お、じゃあ、ありがとう。

リク、目薬をさす。少しの間。

リク うわこれ……これめっちゃすごいね、一気に飛んでく感じる！
ミカ ですよね！これ。かなりオススメなんです。
リク え、いくら？
ミカ （ニヤニヤと）……気になりますかあ？
リク ……嘘でしょ？
ミカ （ハキハキと）なんと今、私からお買い求めいただければ……
リク ええ……

二人は笑い合う、あるいは罵り合う。おしまい。